

## 「生徒目線の授業づくり」における3つの視点

### 視点1 学習の見通し

#### ■生徒の姿■

- 1 学習に取り組む前に、単元や本時の目標（何ができるようになるか）、学習の進め方（いつまでに、どのように、何をするか等）を意識している。
- 2 課題解決に向けて、既習事項（用いるもの）や、考え方（用い方）を確認し、解決方法や結果を予想している。

#### 【考え方】

- 単元や各授業の導入段階で、生徒に学習の「見通し」をもたせることが大切です。
- 生徒にとって見通しのない授業を受けることは、出口のないトンネルを歩かされるようなものです。
- 「本時からしばらく『羅生門』を読んでいます。」ということではなく、『羅生門』という教材を使ってどのような資質・能力を身に付ける計画なのかを生徒と共有しましょう。

### 視点2 学習課題（柱となる発問）を解決するための学習活動

#### ■生徒の姿■

- 1 分からないところは自分で調べたり、友達や先生に質問したりして、見通しをもって主体的に課題解決に取り組んでいる。
- 2 自分の考えを、友達の考えと比べながら見直し、よりよい考えに修正しながら、理由や根拠が分かるように表現している。

#### 【考え方】

- 学習指導要領において、「当該教科・科目における理解をより深めることを目的とし、教科の内容項目（指導事項）に応じた課題に沿って探究的な活動を取り入れること」の必要性が示されています。
- 探究的な学びの質を担保するためには、「学習課題（柱となる発問）」を適切に設定することが肝要です。
- 学習課題を決める際には、生徒の反応を予測して文言を精査しましょう。問い方によって生徒の答え方は変わります。学習課題の解決に取り組む生徒の姿を想像し、言葉にこだわって学習課題を設定しましょう。

### 視点3 学習の振り返り

#### ■生徒の姿■

- 1 単元や題材など内容や時間のまとめりごとに、できるようになったことやできなかったことなど、課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。
- 2 評価問題等を通じて、身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用感を感じながら、次時の学習や今後の生活に結び付けている。
- 3 自身の学ぶ態度（粘り強さ、自己調整力等）の変容を自覚している。

#### 【考え方】

- 単元ごとに、学習内容や学習方法、課題解決の過程等、学んだことを自覚できるように促しましょう。
- 自己評価は文章で記述させるなど、生徒が達成感や学習内容の有用感を得られるように工夫しましょう。

## 学習指導要領における指導の充実に向けて

### 「年間指導計画」作成の留意点

1 「古典探究」以外の科目における年間指導計画において、各単元の領域ごとの授業時数を明示するとともに、学習指導要領で示されている各科目の領域ごとの授業時間を遵守してください。

※ 例えば、「現代の国語（2単位）」では、総授業時数のうち「話すこと・聞くこと」は20～30単位時間、「書くこと」は30～40単位時間を行われなければなりません。

2 一単元一領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域から一つ）で計画してください。

3 学習指導要領に示されている当該科目の全ての指導事項を網羅することに御留意ください。

### 「単元の指導と評価の計画」の作成、実施の留意点

1 「教材を教える授業」から「資質・能力を育成する授業」へと転換を図り、目標と指導と評価が一体化した単元計画を作成してください。

2 単元の目標（「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」）は、基本的に当該科目の学習指導要領の指導事項の文言から、育成したい資質・能力に合致するものを選んで設定してください。

3 単元の評価規準（「知識・技能」、「思考・判断・表現」）は、単元の目標を踏まえ、当該科目の学習指導要領の指導事項をもとに作成してください。

なお、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することは可能ですが、年間を通して全ての指導事項を指導するよう、年間指導計画において十分整合を図ってください。

4 単元の評価規準（「主体的に学習に取り組む態度」）は、①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、②「①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」の双方を適切に評価できるように作成してください。

5 全ての単元で、言語活動を位置付けた学習過程となるようにしてください。

また、言語活動と指導事項（単元の目標、評価規準）を混同して、言語活動の取組状況を評価することがないようにしてください。

6 「知識及び技能」の指導事項は、「思考力・判断力・表現力等」の指導事項を通して指導することが基本ですので、「知識及び技能」が独立した単元や単元の一部で「知識及び技能」を固めて指導することは想定していないことに御留意ください。

※ 「『単元の指導と評価の計画』の作成、実施の留意点」の詳細については、令和3年度教育課程編成・実施の手引をご覧ください。

### 言語活動と指導事項を混同しないためのポイント

- 評論を読んで書き手の意図を解釈することを目標とし、学習過程で話し合う活動を行う単元は、授業時数は「読むこと」の時数としてカウントし、単元の評価規準も「読むこと」で作成する。
- 根拠の示し方を考えて意見文を書くことを目標とし、学習過程で提示したテーマに関する文章を読む活動を行う単元は、授業時数は「書くこと」の時数としてカウントし、単元の評価規準も「書くこと」で作成する。
- スピーチの話題に沿って必要な情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することを目標とし、学習過程で様々な文章を読む活動を行う単元は、授業時数は「話すこと・聞くこと」の時数としてカウントし、評価規準も「話すこと・聞くこと」で作成する。